

## 職業奉仕雑感

クラブ会長年度に、全国の先輩ロータリアンの様々な文章や、ロータリー関連書籍などから学び(一夜づけではあるが)、自分なりに理解した職業奉仕について、とりとめなく拙いながら書き記します。

ロータリーの五大奉仕、勿論いずれも大切です。ロータリーを学び理解し奉仕の心が磨かれてくると、それら五大奉仕のいずれにも偏ってはいけなさと理解できるよくなると思います。しかし我々ロータリアンは大半が職業人である為、まずは自らの仕事・職業において奉仕の心、つまり利他の心を実践してこそ、次の社会奉仕、国際奉仕、青少年奉仕に進む事が出来るのではないのでしょうか。生活や人生の基盤となる自分の職業が安定すれば、多少の余力も出て、社会奉仕や国際奉仕について考える事も出来るだろう。自分の会社や仕事が不安定な状態では、いくら社会の為と言っても、それはやはり大変だろうと。まずは職業奉仕で培った考え方を、次に家庭や地域社会に向けたものが社会奉仕、外国に向けたものが国際奉仕、将来を担う青少年の育成に向けたものが青少年奉仕、そして自らを磨いてくれるクラブの運営に協力する事がクラブ奉仕。

改めてロータリーの奉仕とは何か、それは利己と利他の調和と言われる利他の心。つまり自らの人生全般において、何事も初めに他人の事を考え他人に尽くす心の習慣をもつこと。仕事でも社会生活でも、全てにおいて利他の心という習慣があれば、自分の行動全てが奉仕の実践になる。

職業奉仕という言葉は1927年に生まれました。商道德を遵守し利益を上げて、ビジネスとしてお客様からの信頼を獲得する。これが出来ていれば立派に職業奉仕が出来ている。更に噛み砕けば、他社では出来ないような良い仕事をする、これも職業奉仕。その結果、たとえばお客様に「あなたの会社のお陰で幸せな生活が送れます」そんなふうに少しでも喜んでもらえたら、それが最高の職業奉仕の実践である。今SDGsが叫ばれ、CSR(企業の社会的責任)という言葉もある。自分の会社に関係する人々を喜ばせる、或いは少しでも地球環境に配慮した経営を心掛け、適正な利益を出し続ける。自分の会社に関係する人々が幸せを感じる、その範囲で利益を追求し続ける、それが職業奉仕。また、利己と利他の調和つまり自社の利益追求が人様のためにもなる、そんな経営をする事が職業奉仕である。

そもそもロータリークラブというのは、商売をする上で当然利益は必要だが、それだけでなく他にも考えなければならぬ事があるのではないか。このような職業倫理の提唱がスタートのきっかけであったと思う。我々ロータリアンにとっての基本中の基本である職業奉仕とは、自らの仕事を通して世のため人のために尽くす、そんな正しい仕事観を磨くこと。これからも勉強して参りたいと思います。